

令和6年度 常陸大宮市原子力災害広域避難訓練

アンケート集計結果

(参加機関・市職員アンケート)

I 全般

1 本資料について

本アンケート調査は、市が実動訓練参加者（市・茨城県・日本原電・原電エンジニアリング(株)）を対象に実施し、訓練成果を整理、分析して課題等を抽出し、改善策をとりまとめ、「常陸大宮市原子力災害広域避難計画」の実効性の向上を図ることを目的として実施しました。

2 アンケート実施方法

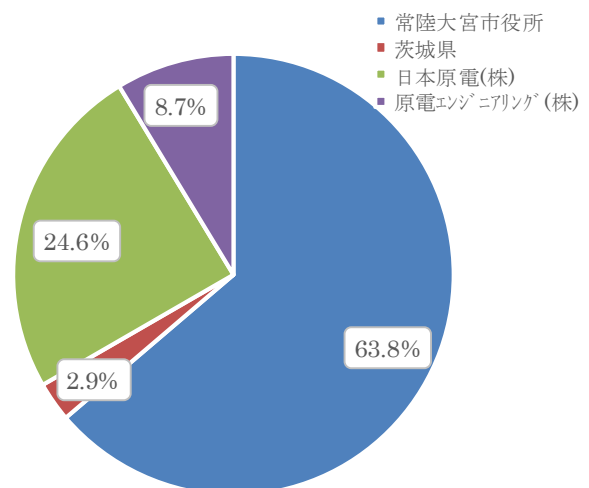
アンケートは市がロゴフォームを活用した Web 方式で行いました。

本資料は令和6年12月1日（日）に実施された「令和6年度常陸大宮市原子力災害広域避難訓練」の訓練要員97名中、69名から回答を得たものを纏めたものです。

II アンケート集計結果

1 組織

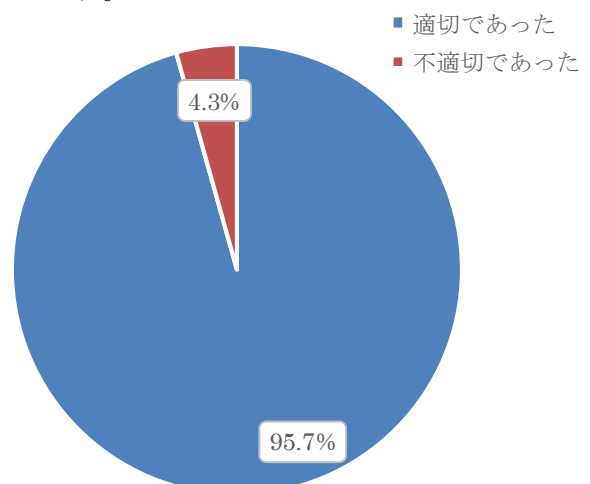
項目	回答数	構成比
常陸大宮市役所	44	63.8%
茨城県	2	2.9%
日本原電(株)	17	24.6%
原電エンジニアリング(株)	6	8.7%
合計	69	100%



2 訓練時期・時間は適切でしたか。

「適切であった」が最も多く約95.7%（66名／69名中）でした。
訓練時期・時間とも適切であったものと考えます。

項目	回答数	構成比
適切であった	66	95.7%
不適切であった	3	4.3%
合計	69	100%



【どのような時期がよいか、またその理由】

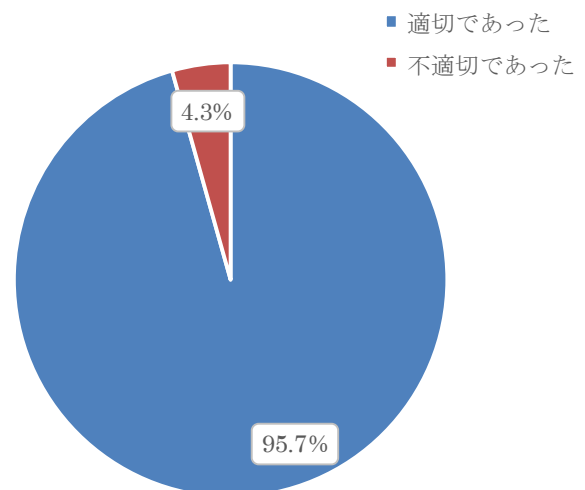
- ・ 体育館が非常に寒かったのもう少し早い時期での実施がよかった。
- ・ 少なくとも2週連続休日実施は避けていただきたい。自身の所属からも苦情が出ていた。
- ・ 予算時期、他行事時期との調整

3 訓練の準備期間、打合せ・調整方法は適切でしたか。

前問と同様に、「適切であった」が最も多く約95.7%（66名／69名中）でした。

訓練の準備期間、打合せ・調整方法についても適切であったものと考えます。

項目	回答数	構成比
適切であった	66	95.7%
不適切であった	3	4.3%
合計	69	100%



【どのように改善すればよいか、またその理由】

- ・ Q2 と重複するが、2週連続休日実施は避けていただきたいのと、必要な人数より少ない人数で訓練に当たらないといけないことがあったので、もう少し日程調整で配慮いただきたいと思った。
- ・ もう少し早めのスケジュールにより職員への知識普及を行ってほしい。

4 その他、訓練企画・調整の段階でお気づきの点がありましたらお聞かせください。

主な意見として、訓練参加規模の拡大（住民（見学含む）、職員）のほか、主要職員の統制側（コントローラー）と訓練者側（プレーヤー）の明確な分離（ツーキヤップの排除）、受付の改善、IP無線の有効性及び職員説明会の実施要領など全体的に肯定的かつ具体的な意見が多く見られました。

- ・ 混乱を避けるためか、参加者以外の方はいないように見受けられましたが、折角の機会なので、一般の方や避難区域の方に見学だけでも呼びかけても良かったの

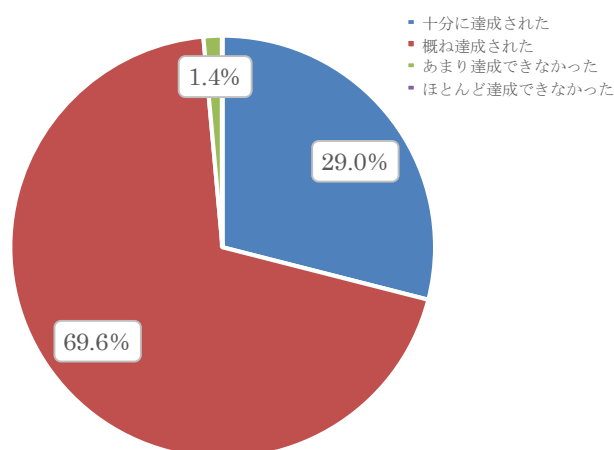
ではないかと思いました。

- ・訓練地域在住や出身の職員がもっと参加出来たらよかったと思います。周知の仕方を工夫すれば、参加できたのではとも思います。実際に事が起きた時、避難の方法等が訓練で経験していたら、役に立つのではと思います。
- ・退域避難訓練において、訓練参加者（市民の皆様）が自分の動線が分かるよう、道路に矢印テープを貼る等しておくとうい。また、その動線が分かれば、設営もそれに沿ったものになるのでよい。
- ・避難退域時検査は県の分掌であるにもかかわらず、市の方でも積極的に動いていただいていたので、非常に助かりました。
- ・当事者として、打合せ、調整等については問題ないと思いますが、Q2・Q3については適切と回答したが、訓練時期・時間・準備については、分からない。
- ・危機管理課長について、訓練の進行役と訓練上の発言者を兼務していたが、分けた方が分かりやすいと思った。
- ・住民受付の際に窓口が3箇所しか設けていなかった為、混雑してしまい避難住民の方たちの待ち時間が発生してしまったので、窓口を増やした方がスムーズに受付できると思いました。
- ・IP無線の活用が、訓練進行上有効だったと思います。
- ・参加者班ごとの説明会が1室で行われたが、違う班の説明や意見がとても聞こえてきて集中しづらかったので、次回班ごと説明回の際は時間帯を班ごとにずらすか部屋を別にしてほしいです。

5 本訓練は「緊急事態の進展に応じた対応・体制を確認するとともに、広域避難計画の実効性の向上を図る」ことを目的に実施されました。本訓練目的の達成度は、どの程度と感じましたか。

「十分に達成できた」と「概ね達成できた」が約98.6%（68名／69名中）であり、訓練目的は達成できたものと考えます。

項目	回答数	構成比
十分に達成された	20	29.0%
概ね達成された	48	69.6%
あまり達成できなかった	1	1.4%
ほとんど達成できなかった	0	0%
合計	69	100%

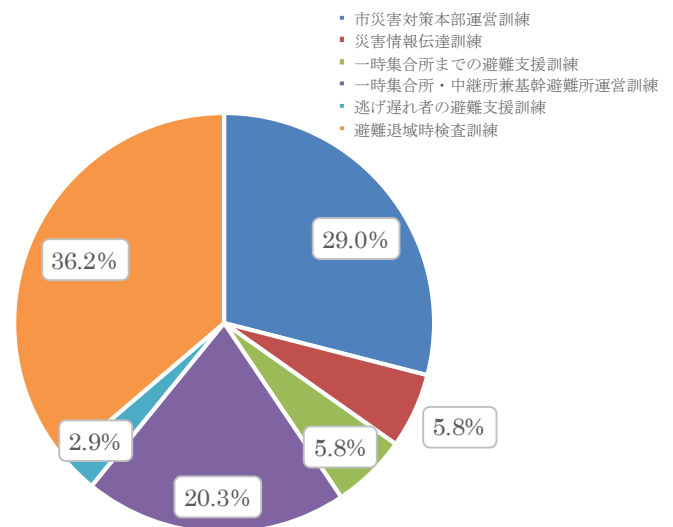


【どのような部分でそのように感じたか】

- ・広域避難計画の実効性を考えたときに、今回参加した人は対応や体制を理解したかもしれないが、その他の職員までは共有されないと思う。今回の担当分けも実際の災害時の役割分担に基づいた分担だと思うが、訓練に参加していない職員にも役割が共有でき、平時から認識できるとよいと思う。

6 今回参加された訓練を選択してください。

項目	回答数	構成比
市災害対策本部運営訓練	20	29.0%
災害情報伝達訓練	4	5.8%
一時集合所までの避難支援訓練	4	5.8%
一時集合所・中継所兼基幹避難所運営訓練	14	20.3%
逃げ遅れ者の避難支援訓練	2	2.9%
避難退域時検査訓練	25	36.2%
合計	69	100%



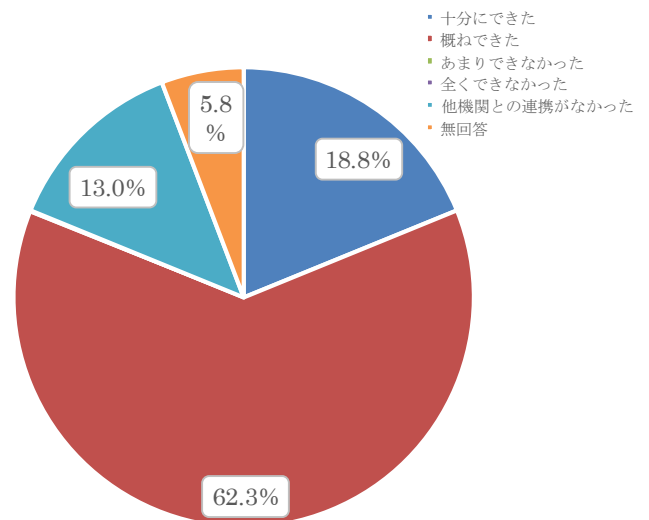
7 訓練で実施した原子力防災業務における関係機関との連携についてお聞きします。

（１）情報共有は適切になされていましたか

「十分にできた」と「概ねできた」が約 81.2%（56名／69名中）でした。また、回答された方（「無回答」の4名を除く）に絞ってみますと、同じく 56名／65名の約 86.2%であり、ほとんどの方が情報共有は適切になされたと回答しています。一方、「他機関との連携がなかった」と回答された方が約 13%（9名／69名中）いました（回答された方（「無回答」の4名を除く）に絞ってみますと、9名／65名の約 13.8%）。

今後、関係機関相互の連携、特に「情報の共有」に関わる訓練などの実施の可否について検討することが求められていると考えます。

項目	回答数	構成比
十分にできた	13	18.8%
概ねできた	43	62.3%
あまりできなかった	0	0%
全くできなかった	0	0%
他機関との連携がなかった	9	13.0%
無回答	4	5.8%
合計	69	100%



【具体的な理由・事例】

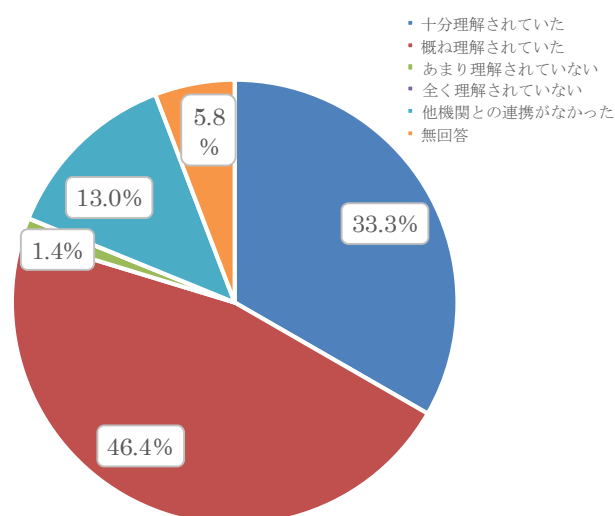
- ・スケジュールに沿って、想定された内容での情報共有でしたので、概ね適切になされていた。実際の有事の際、いち市町村だけで関係機関と連携することが可能なのか。近隣市町村との情報の混乱や錯綜が発生しないか疑問でした。
- ・検査車両の出発、到着予定時刻など、こまめに連絡を取り合うことが出来たように感じました。
- ・一時集合所からの車両の出発や、避難退域時検査場所に向かうバスの状況を、当方でも確認の連絡ができる体制であったので（無線が県にも1台付与されていた）、状況が把握できました。車両の振り分けについて、もう少し調整をすべきだったと感じているところです。検査会場の入口には、検査を受ける車両の外、見学者の車両、警察（パトカー）、自衛隊、市長様の乗車した車両等、様々な車両が通過しましたが、どのような車両が来場し、どのように振り分けるか、特に市長様の乗車された車両の誘導についての確認と情報共有等、小職の役割が十分であったかと反省している次第です。可能であれば、会場入り口付近に車両の振り分けの判断をしていただける市の職員を配置していただければとありがたいです。
- ・災害対策本部会議で協議する内容や、進展状況については原電と調整し、また、テレビ会議での内閣府及びオフサイトセンターとの調整を、茨城県原子力安全対策課を通じて行うことができた。

(2) 業務手順・業務分担は各機関相互に理解されていましたか

「十分にできた」と「概ねできた」が約79.7%（55名／69名中）でした。また、回答された方（「無回答」の4名を除く）に絞ってみますと、同じく55名／65名の約84.6%であり、多くの方が業務手順・業務分担は各機関相互に理解されていたと回答しています。一方、「あまりできなかった」と回答した方が1名のほか、「他機関との連携がなかった」と回答された方が約13%（9名／69名中）いました（回答された方（「無回答」の4名を除く）に絞ってみますと、9名／65名の約13.8%）。

今後、各機関相互の連携、特に「各機関相互の業務手順・業務分担」に関わる訓練などの実施の可否について検討することが求められていると考えます。

	回答数	構成比
十分にできた	23	33.3%
概ねできた	32	46.4%
あまりできなかった	1	1.4%
全くできなかった	0	0%
他機関との連携がなかった	9	13.0%
無回答	4	5.8%
合計	69	100%



【具体的な理由・事例】

- ・退域避難訓練の業務統括担当者間での連携はスムーズだったと思う。
- ・業務分担などは、各自の担当場所がはっきりとしていたため、戸惑うことが無かった。
- ・除染を受けない住民に対して、住民指定箇所検査場所では何をしているのか説明するとの話であったが、その部分の具体的なフローが把握できていなかった。大型バスに乗車していた住民6名（代表者含む）が除染している間に、同バスの同乗者がその工程を見学するものとイメージしていたが、実際には同タイミングで車両指定箇所検査（避難退域時検査における最初の工程）の説明から始めていたため、住民指定箇所検査の作業の様子は見れていない可能性があること、簡易除染を受けている方が車両指定箇所の説明を受けていないことについて、これではよろしかったか懸念しております。また、最終の車両について、大型バスと同時に会場に到着したため、汚染なしとして取り扱いをしてしまいましたが、住民への説明の状況を見ながら、デモとして走行いただいた方がよかったのか、市として満足いただけるオペレーションであったか、と考えているところです。想定どおりであれば、問題ございません。

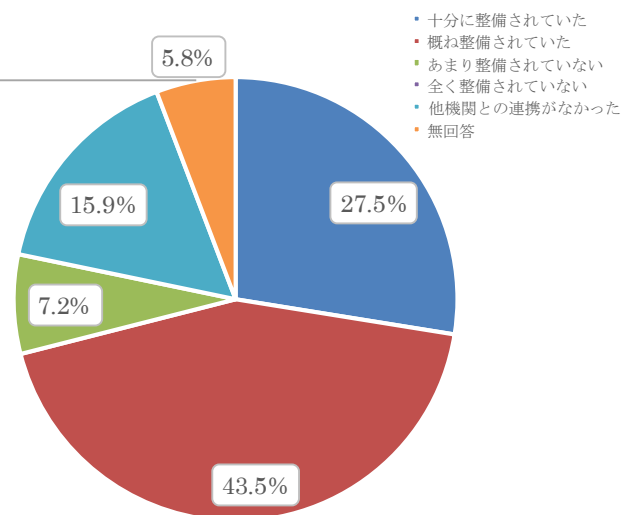
- ・各班ごとに分かれて、当日の業務分担、タイムスケジュールについて職員説明を行ったので、情報を共有することができた。

（３）機関相互の連携に際して定型様式等は整備されていましたか

「十分に整備されていた」と「概ね整備されていた」が約 71%（49 名／69 名中）でした。また、回答された方（「無回答」の 4 名を除く）に絞ってみますと、同じく 49 名／65 名の約 75.4% であり、多くの方が機関相互の連携に際して定型様式等は整備されていたと回答しています。一方、「あまり整備されていない」と回答した方が 5 名（約 7.2%）のほか、「他機関との連携がなかった」と回答された方が約 15.9%（11 名／69 名中）いました（回答された方（「無回答」の 4 名を除く）に絞ってみますと、11 名／65 名の約 16.9%）。

今後、機関相互の連携、特に「定型様式等の整備」について検討を進めていくことが求められていると考えます。

項目	回答数	構成比
十分に整備されていた	19	27.5%
概ね整備されていた	30	43.5%
あまり整備されていない	5	7.2%
全く整備されていない	0	0%
他機関との連携がなかった	11	15.9%
無回答	4	5.8%
合計	69	100%



【具体的な理由・事例】

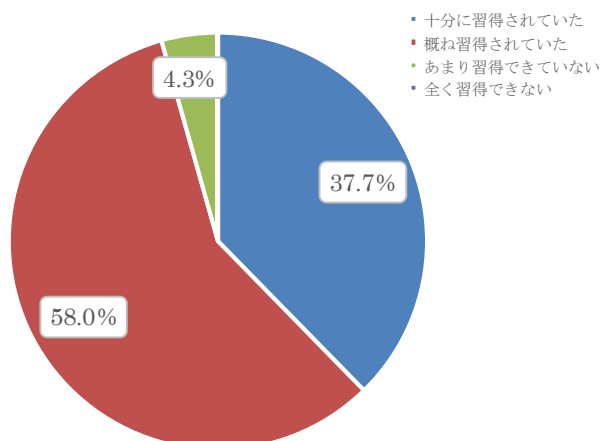
- ・退域避難訓練での全体測定/除染の部門で使用する様式は、準備されていた。
- ・担当したところでは、大きな混乱は無かったので、整備されていたのではないかと思います。
- ・申し訳ありません。定型様式がこういったものがあるのか知識不足でわかりません。ご教授いただければ幸いです。そのため、「あまり整備されていない」にチェックしてしまいました。

8 訓練で実施した原子力防災業務における自組織の習熟度についてお聞きします。

(1) 業務に係る基礎知識は十分に習得していましたか

「十分に習得されていた」と「概ね習得されていた」が約95.7%（66名／69名中）であり、ほとんどの方が業務に係る基礎知識は習得していると回答しています。一方、「あまり習得できていない」と回答した方は3名（約4.3%）でした。

項目	回答数	構成比
十分に習得されていた	26	37.7%
概ね習得されていた	40	58.0%
あまり習得できていない	3	4.3%
全く習得できない	0	0%
合計	69	100%



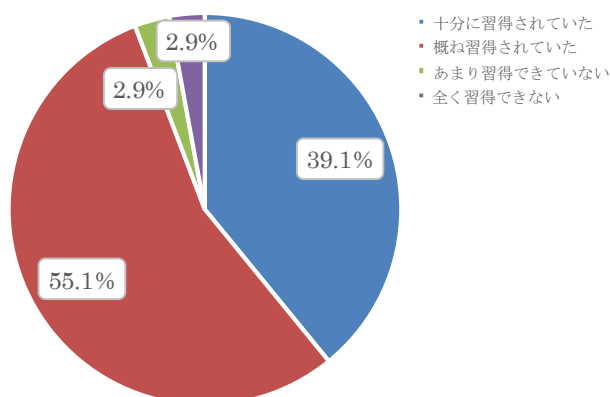
【具体的な理由・事例】

- ・基礎知識が不十分だった。再研修をしていただいたが、定期的にあえて実施していかないと、平時の業務では使わない知識なので、忘れてしまうため、次年度以降も訓練に合わせ課内での研修を実施していければと思う。
- ・事前のリハーサルを重ねていたため、習熟度が上がったと思う。

(2) 業務に係る機器等操作技術は十分に習得していましたか

「十分に習得されていた」と「概ね習得されていた」が約94.2%（65名／69名中）であり、ほとんどの方が業務に係る機器等操作技術は十分に習得していると回答しています。一方、「あまり習得できていない」と「全く習得できない」と回答した方はそれぞれ2名（約2.9%）でした。

項目	回答数	構成比
十分に習得されていた	27	39.1%
概ね習得されていた	38	55.1%
あまり習得できていない	2	2.9%
全く習得できない	2	2.9%
合計	69	100%



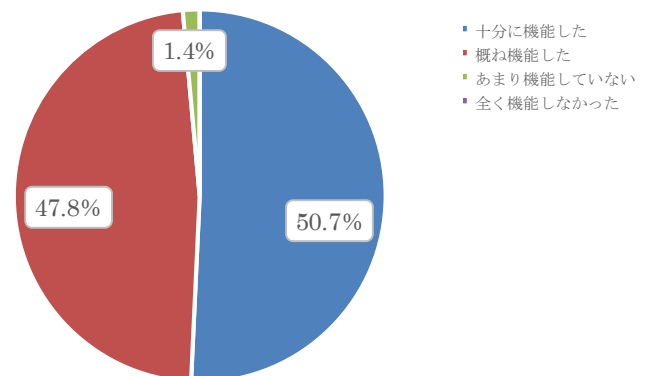
【具体的な理由・事例】

- ・機器は、何度も操作したため使い慣れてきたと思う。
- ・電波状況により聞き取りが難しい時があった。
- ・業務に係る機器等に触れることがなかったことによる。

（３）自組織内の指揮命令系統は十分に機能していましたか

「十分に機能した」と「概ね機能した」が約 98.5%（68名／69名中）であり、ほぼ全ての方が自組織内の指揮命令系統は十分に機能していたと回答しています。一方、「あまり機能していない」と回答した方は1名（約1.4%）でした。

項目	回答数	構成比
十分に機能した	35	50.7%
概ね機能した	33	47.8%
あまり機能していない	1	1.4%
全く機能しなかった	0	0%
合計	69	100%



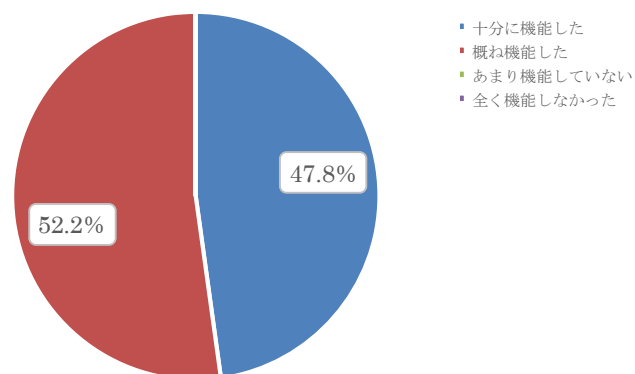
【具体的な理由・事例】

- ・災害対策本部会議への召集通知が、召集者リストの登録者から漏れていたためか連絡が来なかった。リストは都度作らず、常時リスト化しておくべきかと思いました。
- ・情報が変化した時も、都度連絡を行っていたため、不都合は無かった。
- ・一部判断に迷う場面や連携が遅れたと感じた場面があったため、反省点と感じております。
- ・班長が防災行政無線を使って、係員の集合の指示をした際、返答をしなかったため、命令が伝達できているか確認が出来なかった。また、指示を受け取る側も、操作が慣れてないのもあり、返答すべきか悩むところもあった。
- ・各所に、危機管理課職員を配置し、それぞれ統制を取ることができた。

（４）自組織内での情報共有は十分に機能していましたか

「十分に機能した」と「概ね機能した」が100%であり、全員が自組織内での情報共有は十分に機能していた回答しています。

項目	回答数	構成比
十分に機能した	33	47.8%
概ね機能した	36	52.2%
あまり機能していない	0	0%
全く機能しなかった	0	0%
合計	69	100%



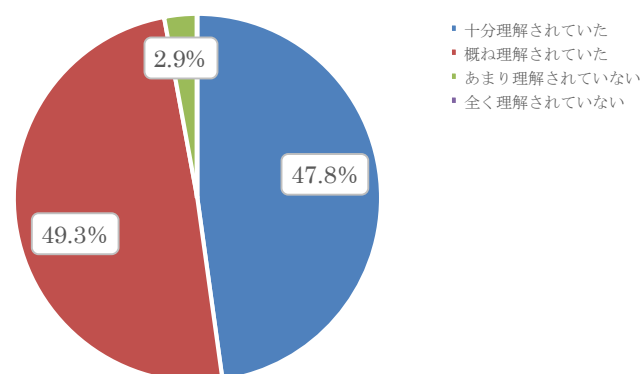
【具体的な理由・事例】

- ・トランシーバーを使用して、都度、情報を共有した。
- ・IP 無線を活用し、各班の事務の進捗状況を概ね確認できた。

(5) 業務手順・業務分担は自組織内で整理・理解されていましたか

「十分に理解されていた」と「概ね理解されていた」が約 97.1% (67 名/69 名中) であり、ほとんどの方が業務手順・業務分担は自組織内で整理・理解されていたと回答しています。一方、「あまり理解されていない」と回答した方は 2 名 (約 2.9%) でした。

項目	回答数	構成比
十分理解されていた	33	47.8%
概ね理解されていた	34	49.3%
あまり理解されていない	2	2.9%
全く理解されていない	0	0%
合計	69	100%



【具体的な理由・事例】

- ・所属組織内では原子力災害に特化した検討は行っていなかったため、原子力災害時の体制や行動については理解できていなかった。今回基礎的なところから再度研修をしてもらったが、定期的に研修を実施していく必要があると感じた。
- ・事前に配置図等の資料を作成していたため、戸惑うことがなかった。
- ・住民の誘導者は、多くて多すぎることはないと感じました。
- ・住民の方と移動していたので、今後の行動について、細かいことを確認されることがあった。事前の研修では、自分たち以外の班がどのようなことをやっているのか(他団体も含む)、住民の方が事前にどのような説明を受けているのか、確認する機会があまり無かったため、訓練としてどのような業務があるのか事前に把握しておいてもよいのでは思った。

9 本訓練項目に関して、次年度以降の訓練で取り組むべき内容があればお聞かせください。(新たな取り組みの提案、新たに参加してもらうことが望ましい機関・団体など)

<新たな取り組みの提案>

- ・教育委員会（小中学校・幼稚園等）やこども課（保育園等）領域での訓練
※学校関係の訓練参加、災害時に教育現場が何をしなければならないかの共有だけでも
- ・高齢者施設や障害者施設との連携訓練（民間施設が主体的に訓練行動をする）
※施設の福祉車両を使用
- ・自家用車（レンタカー又は公用車）を使用した広域避難、避難退域時検査訓練
※実際に避難住民に体験してもらった方がイメージしやすい
- ・全庁的な原子力防災業務職員の育成・研修
- ・0からの一時集合所開設・運営訓練（開設指示→職員参集・移動→開設準備→開設→受入受付→ヨウ素剤配布→移動まで）
※時間がなければ、前日に職員のための訓練を実施するなど
- ・訓練行程における一部ブラインド訓練（コントローラーがわざと状況展開する）※事前に伝えない

<訓練（参加）規模>

- ・見学希望者：一般の方や避難区域の方
- ・多くの市民の方に訓練に参加していただきたい。また、訓練参加者（実働機関）としては、様々な団体（他の実働機関）との連携訓練も実施させていただきたい。
- ・各地域での訓練を重ねる事が大切であると思います。
- ・一般市民の参加がよかったと思います。一般市民の参加型訓練を継続して頂きたいと思います。
- ・市民参加は根本地区が対象となっていたが、他の地域の方が参加する機会があってもいいと思う。
- ・課題を見つけるために、未就学児がいる家庭の参加（まとまった数）

<リアリティある訓練>

- ・実際に避難先の市町村に行くようにしてはどうでしょうか。市民が避難先市町村に行っておくことで、安心感を持つことができると思います。
- ・実際の雰囲気を出すためにも避難者想定の人でも厳しい態度やひばく等への説明などをリアリティーを出してはいかがだろうか？
- ・車両の検査場など、本格的に設営されていて、リアルな訓練になった。
- ・今回の訓練は、みなしで行ったため、栃木県までは避難せず市内完結で行ったが、協定を締結している7市町とも調整し、実際に行ってみる必要もあると感じた。
- ・職員が、どのように立ち回るかを確認した方が良いと感じた。

<訓練の継続>

- ・各種訓練は、繰返し実施することが重要であると感じた。

<避難退域時検査訓練>

- ・住民検査・車両除染担当でした。導線が一つのため、バスなど来るとすぐに詰まってしまうので、できれば2つにしていただける配置を検討いただきたくお願いいたします。
- ・退域避難訓練で、測定待ちで座っている方に、何をしているかが分かるようポスターのようものを掲示（座っていても読めるよう、またはビデオの放映）などをして、少しでも不安を除去できればいいと感じた。
- ・訓練の緊張度を高めるために、車の台数や汚染の有無等は事前にお知らせしなくても良いのでは？
- ・大型バスに対して、検査レーンのコース設定が狭く、危険に感じた。

<安定ヨウ素剤配布>

- ・実際に原子力災害となった場合、広域避難と同時に、不安緩和を含むヨウ素剤の配布が課題になるのではないかと推測します。そのため、薬剤師会との事前調整が必要かと感じました。（薬局運営があるため平日休日で協力体制が違ってくとも考えられるので）

<訓練参加者の意識向上>

- ・逃げ遅れた住民の避難誘導の中で、住民の方がはぐれてしまう事例があった。避難先に知り合いがいて話し込んでしまい、誘導者の指示が聞こえなかったらしい。
 - ①参加者としても所詮訓練でしかないとの参加者の意識があったことから、事前の意識改善が必要。
 - ②誘導する側も先頭に立って誘導していると、後方ではぐれた人を見落とししてしまうことがあることから、先導者が注意することと共に前後に誘導者がつければ、起こらなかった問題だったのではないかと考えます。

<訓練の具体的な改善意見>

- ・私は一時避難所で受付を担当しましたが、避難者がある程度まとまって避難してきたため、受付が渋滞してしまっていました。実際に災害が発生した場合は、更なる混乱が生じると思いました。そのため、「ABCの受付に1人の統括者（名簿確認）」ではなく、「ABCそれぞれに名簿確認者」や「ABCのほか追加の受付」等の対策が必要ではないかと感じました。

<その他>

- ・様々な媒体を用いて住民に向けた広報を実施されていたと感じました。今後とも、市長のご発言もありましたとおり、住民に正しい情報をタイムリーに伝えることができるよう、県としてもご協力させていただきたいと思いますので、引き続き、どうぞよろしくお願い申し上げます。訓練では、調整等で大変お世話になりました。改めて御礼申し上げます。誠にありがとうございました。